

金沢表具

歴史と特色

가나자와표구

表装ともいわれる表具は、仏教の伝来とともに中国より伝わり、経巻の表装や礼拝用仏画像の掛軸として始められたものが原型とされている。金沢表具の由来は明らかでないが、仏教の普及や茶道の興隆などと深くかかわり合いながら発展し、藩政時代には御用表具師がいた記録もあり、当時から京表具、江戸表具と並び全国に知られていた。現在は、金沢市を中心に古い掛軸等の文化財の修復にもたずさわる等、高度な技術を誇っている。

作風は、京表具の流れをくみ、百万石文化を反映してどっしりとした渋い仕上がりが多く、寸法は金沢の町家に合せ、京寸法より短かめである。

材料の裂地は京都西陣、和紙は美濃紙、大和紙等を使用し、消費者から注文を受け生産している。

역사와 특색

표구는 불교의 전래와 함께 중국에서 전해져 왔으며, 불경의 표지와 예배용 불화상의 족자에서 쓰이기 시작했다. 가나자와 표구는 불교의 보급, 다도의 융성 등과 깊은 관련을 맺으면서 발전해 왔으며, 교토표구, 에도표구와 더불어 널리 알려져 있었다. 현재는 문화재 수복에도 이용되고 있으며, 주문생산도 이뤄지고 있다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	掛軸、屏風、和本(족자, 병풍, 일본책 외운)
主な生産者(주요 생산자)	金沢美術表装協同組合(가나자와 미술장식 협동조합) 〒920-0981 金沢市片町1丁目3-13(가나자와시 가타마치 1-3-13) TEL (076) 260-6800 石川県表具内装協同組合(이시카와현 표구내장 협동조합) 〒920-0064 金沢市南新保町132-1(가나자와시 미나미신보마치 132-1) TEL (076) 237-5899



가나자와 전통우산

歴史と特色

和傘は中国から伝えられた天蓋式絹傘と平安時代に長柄をつけて貴人にさしかけた菅笠から変化したものである。江戸時代に入って紙・竹細工の進歩と都市生活の増大に伴って都市部を中心に発達し、江戸中期頃には現在の開閉自在な傘が作られるようになった。

明治・大正時代の最盛期には、金沢に118軒の傘屋があり、金沢傘の名で県内外に売られていた。しかし、昭和30年頃以降、洋傘が普及し、和傘の製造は激減した。

原料は、かつて金沢周辺に群生していた孟宗竹と五箇山の楮を使い、傘の中心部に和紙を4重に張るとともに周辺部に糸を2~3重に張り、破損しやすい部分を補強するなど、他の和傘に比べて丈夫であることが特徴である。なお金沢和傘の製造は紙の乾燥に適した温度、湿度の3月に集中している。

역사와 특색

우산은 에도시대에 생겨나 메이지, 다이쇼의 전성기에는 가나자와에 118 곳의 우산가게가 있었다. 재료는 이 지역의 맹종죽과 닥나무를 사용하며, 중심부에는 일본전통 종이를 4중으로 겹치며, 주변부에는 실을 2,3중으로 보강하고 있다. 우산은 종이를 가공하는 데 온도, 습도가 적합한 3월에 주로 만든다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	番傘、蛇の目傘、紅葉傘(반가사, 자노메가사, 모미지가사)
主な生産者(주요 생산자)	松田傘・ちようちん店(마쓰다가사·제등 상점) 〒921-8023 金沢市千日町7-4(가나자와시 센니치마치 7-4) TEL (076) 241-2853

金沢和傘